

令和元年度第1回古賀市子ども・子育て会議 議事録

開催日時		令和元年6月26日（水） 14：00～		
開催場所		サンコスモ古賀 203 会議室	公開の可否	可
事務局		保健福祉部子育て支援課	傍聴者数	なし
公開しなかった理由				
出席者	委 員	森保之会長、桑野嘉津子委員、青木扶美子委員、梯裕子委員、天久真吾委員、末次威生委員、神崎美春委員、神谷実枝委員、金子美聡委員、久保田純子委員		
	事務局	田辺市長、野村保健福祉部長、足立子育て支援課長、渋田子育て支援係長、佐藤子育て支援係員		
	その他	なし		
議 題		・平成30年度第5回会議の議事録について ・子ども・子育て支援条例の啓発について ・令和元年度子ども・子育て会議 年間スケジュール（案）について ・子ども・子育て支援事業計画に関わるニーズ調査の結果報告等 ・第2期事業計画の骨子（案）について		
配布資料		○資料1 「平成30年度第5回古賀市子ども・子育て会議の議事録」 ○資料2 「古賀市子ども・子育て支援条例 簡易版」 ○資料3 「令和元年度 子ども・子育て会議 年間スケジュール（案）」 ○資料4 「第2古賀市子ども・子育て支援事業計画」 4－1 「第2期古賀市子ども・子育て支援事業計画 骨子（案）」		

○次第

1. 開会あいさつ
 2. 諮問書交付式
 3. 平成 30 年度第 5 回会議の議事録について（資料 1）
 4. 子ども・子育て支援条例の啓発について（資料 2）
 5. 令和元年度子ども・子育て会議 年間スケジュール（案）について（資料 3）
 6. 子ども・子育て支援事業計画に関わるニーズ調査の結果報告等
 7. 第 2 期事業計画の骨子（案）について（資料 4）
 8. その他
-

令和元年度第 1 回古賀市子ども・子育て会議（概要）

1. 開会あいさつ

事務局より会議成立の報告。

事務局より資料確認。

（市長）皆さんこんにちは。市長の田辺一城です。本日は皆様におかれましてはお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

本会議は子ども子育てに関する会議です。私が市長に就任したのが昨年 12 月ですが、その後すぐに経営方針を策定し、既に公開されています。その経営方針の大きな概念図も公開していますが、このまちの課題等を踏まえて 3 つのテーマを掲げています。「産業力を強化していくこと」、「健康安心」、「子ども」と、経営方針に大きく 3 つのうちの 1 つにテーマを掲げています。その意味でも本会議は本市においてとても大事な会議ですし、委員の皆様には是非有意義な意見交換をしていただき、本市の市政運営に多くのご助言をいただきたいと思っています。

お手元に配布してある資料にさきほど説明がありましたが、子ども・子育て支援条例を分かりやすく打ち出そうと、A 3 の表裏の資料をつけています。この条例は皆様のお力をいただいて案を策定し、先の 3 月の定例会において市議会で賛成多数で可決をいただきました。

子どもは権利の主体でありますし、こうした条例を本市がもつのはとても意義があることと思っています。特に裏側、第 3 章第 16 条で、きちんと子どもたちに対してみんなが子どもを大切にしないといけないことを明記しているのは、私はとても好きな部分です。その意味でも子どもたちにも分かりやすく打ち出そうとのことで、一旦その資料も作っておりますし、この条例の意義等についてしっかり子どもたちに伝える場を今年度を作る予定で、私も関わっていくことにしています。あらゆる世帯が子どもを大切にしているまちだということを、この条例でもしっかりメッセージとして発信していかなければならないと思いますので、行政としてはできた条例に基づいて頑張っていきたいと思っています。

本会議の目的は、令和2年度からの子ども・子育て支援事業計画を策定することになりますので、本会議において第2期事業計画の骨子案を提案して、ご審議いただくことになります。皆様それぞれのお立場、知見をもとに是非我々にご提示いただけたらと思います。今回よろしくをお願いします。

2. 諮問書手交式

市長より会長に諮問書手交。

市長と部長は他の公務のためここで退席。

3. 平成30年度第5回会議の議事録について（資料1）

委員により内容について承認される。

4. 子ども・子育て支援条例の啓発について（資料2）

事務局より資料2について説明。

（会長）チラシ配布の大体の目処は夏ぐらいですか。

（事務局）チラシの完成とともに、配布を秋頃に始めたいと計画しています。

（事務局）今回チラシ作成の高校生のうち、自ら手を上げて参加した人もおり、10人程度集まっています。第1回は「市長とともに語ろう」という内容で7月に実施予定。自ら作成することが啓発につながっていくので、「知って、学んで、伝えよう 古賀市子ども・子育て支援条例」というタイトルで活動していきます。

（会長）当事者の高校生の皆さんが参加するのはいいことですね。

5. 令和元年度子ども・子育て会議 年間スケジュール（案）について（資料3）

事務局より資料3について説明。

（事務局）1点補足として、6月から9月にかけて計画案協議があり、事務局としては骨子案を提案し、委員の皆さんにご審議いただきたいのですが、素晴らしい計画ができたとしても、その計画をどのように行動して、目指したい姿に近づけるにはどうしたらいいのか、計画を作って終わりにしてしまうのは勿体無いため、進捗管理や事業評価について毎年どのようにしたらいいのかも含めて、皆さんにご審議いただきたいと考えています。

6. 子ども・子育て支援事業計画に関わるニーズ調査の結果報告等

事務局よりニーズ調査とヒアリング調査の結果報告について説明。

委員からの意見は次のとおり。

（委員）子育ての環境についてですが、概要のP1で、気軽に相談できる先というのが地域での割合が減少しています、子育てにおいてはそのことが大事だと私は日々思っていますが、減少しているのをどう上げていけばいいのかというのがありますが、子どもたちが地域

の人とつながる、知り合う時間がとても減っていることがすごく気になっていて、今回の例えば P7 の真ん中より下の、子育てで出かけやすく楽しめる場所を増やす、子どもがのびのびと遊べる場を増やす、環境についてのニーズが 3 割程度となっていますというのと、では 7 割の人は満足しているのかといったら、そうではないだろうということが一応出てきていて、その何割の中で満足している人とのびのびと遊べる場が必要と感じていない大人の課題もあるのではないかとということが、この数だけでは見つけられない気がしています。子どもたちにいろいろ聞くと「忙しい」とよく言っていて、地域や支援してくれる大人と出会う場所と時間が、子どもたちにとってすごく限られている印象があります。放課後、家で過ごすのが半分くらいありましたよね。家で過ごすことに習い事に出かけたりするのも含まれているのだと思うのですが、全然別なのかを 1 つお聞きしたいのと、家にいて周りの人と遊んでいるのか、それとも忙しいという印象が私にあって、学童に行っている子たちも半分はいるのだけど、学童に行っても学童は忙しいという声も聞いたりするので、子どもたちの忙しさと近所の人とつながる時間の無さの関係については、どのように把握したらいいかを聞きたいと思います。

(会長) 今の話題は大事ですね。今の子どもたちの現状ですね。今の子どもたちが忙しいというのはあちこちで聞きますね。ですから、そのこともあって近所付き合いにつながる環境を作ろうとのことで努力はしているけれども、それを十分活用できない状況もありますよね。その辺りは事務局ではどう考えていますか。

(事務局) 先ほど概要版で放課後の過ごし方、P3 で自宅が 7 割から 8 割いて、でも自宅ではなくて学習塾や文化系の習い事が別項目でありますので、それに行ったりして自宅での割合が高くなっていることもあるのかと思います。ただ、先ほどの忙しいということから行くと、部活動や習い事が忙しいのは本当にあるかと思います。

一方で小学生、中学生の子どもたちが地域活動に参加したいかどうかの項目もあって、例えば小学生では、ピンクの報告書の冊子で、P124 の問 14、あなたは今後地域の活動に参加したいですかとあり、機会があれば参加したいとか、本当のところ行きたいが忙しくて参加できない子たちもいるのかな。あまり参加したいと思わない子もいるでしょうけれども、積極的に参加したい、機会があればという条件付きがあります。これは P140 の問 14 の中学生も同じです。「全く地域に関わりたくない」ではなくて、忙しいのもあるし、「機会があれば行きたい」が半数以上はいることを押さえておく必要があるのではないかと思います。

(会長) 付け加えると、私もそういった活動に関わっていますのでそこからすると、今の中学生も、本当は地域に関わりたいという思いがあります。そういうきっかけづくりはボランティア体験など小学校も中学校もやっており、随分広がってきています。

ただ、学校から子どもたちを地域に返すときに、それはどれくらい反映しているかがまだ私も詳しく状況は分かりませんが、これまでと比べると学校での活動は随分広がってきています。その中で分かったことは、本当に中学生は地域に貢献したいのだという意識が非常に高まりつつあり、アンケートからもその結果が出ています。

(委員) 小学校でも今コミュニティスクールの推進として、家庭、学校、地域で子どもを育てていこうということを地域の方と共有しながら、子どもたちは学習の中で地域と関わる学習をして、何か地域と関わって地域に役立つ自分に少しでもなって、実行性や自尊感情を上げていこうという取り組みが非常に小学校では進んでいます。古賀市全体かどうかは分かりませんが、地域の行事に進んで参加しますかという全国学力学習状況調査では、高校でみれば、全国や福岡県よりも多いとは言えませんが、進んで参加している子どもは多いです。古賀市では、北中学校の「地域盛り上げ隊」といって、進んでいろいろな地域の行事に参加しようということをして、地域行事に行くとき必ず中学生が参加しています。最初の頃は先生がついていったのですが、最近は中学生だけが参加してきているので、その状況をみると、それほど高くないように見えるけれど、いろいろなことを企画すると、高い状態があるのではないかという実感は持っています。

(委員) 高校生ヒアリングのときも高校生たちが、意思があって来たのでしょうか、地域とのつながりをすごく声に出すことが多くて、私はびっくりしました。地域のことを考えて、地域の人とつながっていて良かったという話もして、それだけ時間のある子どもたちがいるにも関わらず、なかなか地域の中に入っていけないということが、親世代も地域との関わりが必要と感じる何かが必要だと思います。

例えば私も土日の体験活動でガールスカウトをしています。まずは習い事があって、その空いた時間に社会体験プログラムや体験活動があって、まずは習い事ありきのところがどうしても仕方ないというか、それが優先順位になると思いますが、社会全体や親世代、大人側の子どもの育ちがそもそも感じられるような場面が必要な気がします。

子どもの権利を大きく表に出すわけではないですが、子どもがぼーっとしたり子どもの時間もちゃんと確保できているかが、親がどれだけ感じているかに必要かと思いました。

(会長) 今おっしゃったのはまさにそうですね。大人の方が少しずれていますね。子どもの方がよく知ろうとして、例えば子どもたちの方が地域をちゃんと知っていて、スーパーでこんにちはと言ったら、親があの人だれ？という状況はよく聞きます。古賀市もデータとしては分かりませんが、その傾向はないことはないかもしれません。それは子どもたちを主体に持ってくると、絶対に変わってくると思います。

(事務局) それに関連して、ニーズ調査報告書の P14 で注目しているところですが、問7をご覧ください。これは就学前の保護者を対象にとったものですが、子育てサークルなどの自主的なグループ活動に参加していますか、当てはまる番号に1つ丸をとのことで、現在は参加していないが今後機会があれば参加したい方が 35.8%います。なので、全くいないわけではなく、現在も参加しており今後も参加するつもりが 10.8%で1割、そして機会があれば参加したい人もいることはしっかり把握しておいて、その仕組みづくりは必要だと思います。

なぜ参加できていないかは問7-1をご覧ください。活動する時間や余裕が無い、活動や参加する方法が分からないとのことで、やはりキツキツした生活と情報発信の仕方が両方

考えていく必要があるのではないかと思いますので、機運というか何かやりたい方はやはりいて、その思いを汲んでどう事業に活かしていくかを考えていく必要があるのではないかと事務局は考えています。

(委員) P80 で子育てに関する情報の入手方法について書かれてあり、どんな場で決まったのか分かりませんが、子どもに対する参加募集というのを今配らないようにしたとか、広報誌に全部そういうのをまとめていくから、学校には配布しないと聞いたのです。そしたら子どもたちはどこでその情報を得るのだろうと思って、広報誌を子どもは結局見ないし、大人が見なくて処分していたが、参加したいこういう活動があることが分からなくなると思います。

(事務局) もう少し詳しく教えていただけますか。

(委員) 小学校です。いろいろ募集があるのを配布しないようにするというか、あと青少年育成課がいろいろと作成して来月こういう活動がありますという案内を今までは配っていたけど、それも配らないようにするとか、広報誌に載せることになったと聞いたのです。そしたら子どもたちに情報がどうやって伝わっていくのか、今までそうやって学校から配布されていたから、子どもたちはこういう体験や活動があるから参加したいと親に話して、では行ってみようかという話があると思うのに、そういう手段の用紙が無かったら、こういうお祭りとかがあることが分からないし、親が興味無かったら連れていけないとかがあると思うので、ペーパーの情報は絶対必要はあります。それも少しずつ変えていかないと、子どもたちは結局習い事だけになってしまって地域に入っていけなくなるのではないかと思います。

(会長) どのような声がありますか。

(委員) 少年団に息子が入っているので、そこの団長さんから聞きました。あと、青少年課にも私の知り合いとか携わっているので、その配布もできなくなったのですよねと聞きました。

(会長) 確認した方がいいですね。学校は共有を始めているから逆ですよ。もっと多くに広がっていろんなシステムになっていますね。もちろん内容によって、これは配布してはいけないとか、ひょっとしたら条件的なものがあるのかもしれませんが、基本的にはオープンで情報を共有するのが大原則ですよ。少し何かそれは確認した方がいいでしょうね。

(事務局) 確認をしたいと思います。

(委員) 子ども・子育て支援、支援者ヒアリングの P12 と P40 を比較して話したいですが、P12 は支援者向けのヒアリング結果です。P40 高校生向けのヒアリング結果です。支援者グループの中には地域力があることを、高校生グループの方はみんなが交流できる町や安心して暮らせる町をキーワードとしてあげています。ここから私は青少年育成の立場から提案したいことが 2 点あります。1 点は、調査報告書の P139 の問 12-3 の携帯電話のメールやラインです。携帯電話のメールやライン経験したことはありますかという中で、チェーンメールを送りなさいという内容が来たのが一番多いアンケートになっています。携帯電話

を所持している状況も報告されています。我々が今課題としているのは、このようなヒアリングに出てこない子どもたちの心配事、要するにスマホやラインによる犯罪に関わってくる部分があり、それを相談できない部分が家庭なのか地域なのかということに課題を持っている子どもがいることです。これを解決するために、ここに書いてある地域の力と一番大きいのは家庭の親の管理というか関わりだろうと思いますが、それがこのヒアリングに出ている子どもたち、また支援者の方たちはよく分かっています。出てくれない子どもたち、要するにラインやスマホで困っている子どもたちの救いを地域と家庭でどうするのかを、我々は今課題にしています。これをしないと、結局ここに出ている子どもたちは、地域の力がいい、地域がいい何がいいということは積極的に、また地域の夏祭りに参加したりする子どもですが、そこに行けない子どもを我々はどう見つけてどう地域と家庭に対してアプローチができるのか、私の今の立場から言うと課題であると委員の皆さんにも知ってほしくてお話ししました。

（会長）それらの通り、いかに巻き込んでいくかですね。

（委員）先の続きで、P75の子育て支援のところの、P107のどんな取り組みかのところで、子どもが安全安心に遊べる居場所やのびのびと遊べる場所がすごくニーズがあるとのことで、子ども教室は今古賀市内で何か所校庭を使ってしてもらっているのでしょうか。古賀市でなくて他地域の活動の場面が私も活動していますが、夏休みとか2回に渡って学童が満杯の状況で子どもたちが1日過ごすことを考えると、福岡市とかは子ども広場が充実してきて、週に2回もやっている状況を考えると、せめて学童に行っている子どもたちも週1回は運動場を尋ねて、学童の先生たちもちょっと負担軽減になるような環境調整が、古賀市でどのくらい行われているかを知りたいと思いました。

（委員）子ども広場は全校にできているらしいですが、結局地域の関わりができていないところがあって、2つぐらいは上手くいっていないかもしれません。でもある程度は、曜日は違いますが、学校は放課後に遊んで入られるというのは、大体できあがっています。

（会長）子ども広場とはちなみに公園のことですか。

（委員）放課後も学校に残ってそのまま遊んで帰ります。

（会長）放課後子ども教室ですね。学校によって違います。国でも放課後子どもクラブと放課後子ども教室の連携が言われています。古賀市での広がりはどうでしょうか。

（事務局）所管の青少年支援課に確認したところ、市内の8校小学校全てに放課後子ども教室を設置しており、校庭で遊ぶとなると4校が実施しているとのことでした。場所によっては地域の公民館を利用して放課後子ども教室を開催しているところもあるようです。

（会長）今の話は4小学校の場で放課後子ども教室をやっているのがあるとのことですね。アンビシャス広場もありますが、結局、国が後から平成19年に放課後子ども教室を打ち出しました。県内でいち早く平成13年からアンビシャス広場をしましたが、それはどちらかと言うと目的が一緒ですから、放課後子ども教室と一緒にってきますよね。それともう1つ、放課後子どもクラブという学童保育の課題がものすごく多いです。ですから今学校が教

室を提供していますね。

(事務局) 東小学校では学童は教室を使っています。学童クラブに行ってもその放課後子ども教室にも行けるというものが、保護者宛のメールとかに入っていて、そのように広がりはありますが、全ての市内の小学校がそうではないようです。

(会長) 今後、その方向に向かっていきますよね。随分、各学校で議論していました。昨年からですね。マッチングできるようにしていただきたいです。

(委員) これからの5年計画の中にそのことが盛り込まれるといいなと思います。

7. 第2期事業計画の骨子(案)について(資料4)

事務局より資料4と資料4-1について説明。

しばらくグループに分かれ委員同士で意見交換をする。(15分程度)

(会長) グループでの話を共有してください。

(委員) 条例の中で、定義が子ども、保護者、学校など地域団体を利用して遊び場を作ると書いてあります。今までのことと昔のこととお話しした中で、学校も今国の施策で働き方改革などに則って、例えば部活動なども基本的には学校で先生がやっていたけど、よそから来た方がやるかたちで減ってきている中で、我々は地域の力というかたちで学校と地域と連携するときに、今までみたいな学校からの協力が少なくなるのではないかということをお話ししました。

(委員) 基本目標5の地域で子育て世帯を支える体制づくりや、それから重点課題4の③支援者同士の横のつながりは十分といえず、地域の支援者同士の連携が必要のところで、支援者同士がつながることは、今いろいろな小学校区でコミュニティ組織がしっかりしているところもある、そうでないところもあることも考えると、これからどんどん高齢化して今積極的にしている方が引退したときに、かたちがきちんと宗像や福津などは市の施策としてあり、古賀市では校区ごとに任されている部分もあるので、市の施策としてきちんと地域のコミュニティづくりなどがあることで、持続可能な支援組織ができていくのではないかとこのことで少しお話ししました。

(会長) 基本目標5にも大きく関わることですね。要は市の施策として、ものすごく充実していくことはとても大切ということです。

(委員) 基本目標5の地域でということと、重点課題の子どもや親が地域と関わる環境づくりのところで考えていくと、子どももちろん地域と関わるのも大事ですが、その前に大人が地域とどれだけ関わろうとしているのか、今回のアンケートで乳幼児を持つ親御さんに対するいろんな団体や関わりたいと思う団体は分かりますが、小学生のところが無かったよねと、小学生の親御さんがどれだけ地域を求めているのかと考えると、自治体としては育成会に今、人が減っているのと、それから現実として今年度から市政だよりが業者配布になって、今までは地域で配ったりそれぞれ工夫したりしたが、業者になるとそこでのつながりが無くなってきて、あれをどうにか、例えば子どもたちに安全面などでの配慮かもしれま

せんが、どうなのかなという話や、大人が便利で今地域と関わらなくなっても困らない、それともう1つ、今グローバルで、地域でなくて世界に目を向けて地域なんてどうでもいいんじゃないという考え方があるのかなとかいろいろ。一度そうやって失われて、子どもが昔からの地域のつながりがあったり、すごく今みたいにいろいろあるけれども、新しい団地とか、その中で一度失われてしまった地域のつながりをもう一度取り戻すのは、すごくエネルギーが要り大変なことで、どうしたらいいのかなということをお話しました。

(会長) 国でやっている流れは、学校としては地域とともに成長する学校にならないといけませんと言っています。学校の中に学校運営協議会という、学校代表、地域代表、保護者代表など集まって、必要に介して構成機関で、子どもたちの教育を行政側が三者の声を反映しながら学校をつくっていく考え方で去年から活動しています。地域はいろんな知見を持ってやるけど、今は子どもをど真ん中に置いた地域づくりをすれば、どんどん大人もおじいちゃんおばあちゃんもみんな元気になるという考え方です。ですから先ほどもありましたが、行政側に、ボランティアとして子どもたちが夏祭りに協調して、子どもたちの活躍の場を提供しながら、それをふくめて大人も元気になる、それが活発になりますね。宗像の場合はコミュニティセンターが小学校の単位であります。それから福津は里づくりという名前でこれも小学校単位であります。私が住んでいる新宮は無いです。旧自治会組織です。僕が分からないのは、古賀の場合はさっき聞いたら、これがあるところと無いところがあると。大体これは施策ですから名前は違いますが、宗像の場合は地域共同活動を作っています。昔の社会教育課の中に部署を作っています。福津は里づくりがあります。それを作っています。古賀はどうですか。

(事務局) 地域活動等の推進の所管は主にコミュニティ推進課です。

(会長) コミュニティ推進課があるんですね。ではコミュニティ推進課がどのようにそれを打ち出していくかということと、基本目標5の体制づくりです。できるだけ子どもたちを参加させながら当事者にしながら変えていこうという機運はあります。ただ、実態としては非常にこういう仕組みや組織が無かったら、いい加減になります。命令しただけで終わらず、連携が必要なのは当たり前です。その連携ができるためには大変でしょう。施策でなくてボランティア的な精神でやっていますから駄目ですよ。お金がいります。施策として打ち出して、大切にしなければなりませんから、その辺りが非常に大事と思います。

(委員) 育成会のことです。

(会長) 育成会ですね。今育成会はどうなのですか。

(委員) 私は古賀に住んでいないので分かりませんが、やはりここが発展している地域はかなり強いと感じるところもあるので。

(会長) あるところは昔の流れでいくと、自治会の下部組織に子ども育成会を組み込んでいます。そうすると、私のいたところでは成り手いないものだからみんな逃げてしまいます。ということで高齢者が育成会長になったのです。自治会の中に子ども会や女性部があったから、そういう仕組みになったようです。コミセンではないから、これを自治会の組織内に

育成会、地域女性部会、老人会があります。ですから、ここにいるのは、子ども会の育成会会長は60代の方がやっています。私のいたところの育成会は役員にならなかつたら逃げるとか、そんな声がありました。もう1つは、自治会に入れば当然育成会にも入っています。だからこれは今後組織として位置付けていかないと、せっかくやってきたものが実現可能なものにしないといけません。国も全部体制づくりです。今までの学校や地域の発想を変えましょうと、全部子どもをど真ん中に置いているのですね。学校もそうです。本当に地域とともにある学校にしていると言っていますが、まだまだ時間はかかります。だから、こういう動きとこの提案ですが、一緒になるようにした方がと思いますが、私は合体したらベストマッチングと思っていますけど、それが古賀ではどうなのか詳しく知りたいです。

(委員) 今の私の区の子ども会、育成会の現状を話すと、小学生の親が役員になるわけです。そうすると、子どもが卒業したらもう親はいないです。だから、親は子どもがいる間は頑張ろうということをやっていますが、頑張るのは前の人がやったことが2つあれば2つだけで、他のことはしないです。自治会の組織の中には入っていますが、自治会の活動への協力性はないです。自分たちで忙しいです。

(会長) 公民館長、それから育成会長、こういうのはあります。

(委員) それは下部組織にあります。下に老人会長とか。

(会長) これをよければ、全部包み込めるようになってくるといいですね。それも大きな下部組織ですよ。

(委員) それから我々の立場から言うと、子ども子育て支援の話からすれば、むしろ今の校区コミュニティではなくて校区子育てコミュニティぐらいにならないと、なかなかこの施策は立派なものになっていかないのではないだろうかと思います。だから校区コミュニティはなくてもいいです。今の校区コミュニティを校区コミュニティ子育て支援か何かの名前で、子どもを真ん中に置いたコミュニティにしてもらった方がいいと思います。そして今は高齢者のコミュニティになっています。

(会長) 自分たちの楽しむ場ですよ。子どもを核とした地域づくりというのは当たり前。いきいきサロンも自分たちが楽しめます。そこに子どもたちを登場させると本当にいい案だということを実感されていないです。実感されたら、どんどん変わってきていますね。今回のこの計画にそういうのが謳われるようになって、蓋を開けたら市の施策としてコミュニティ推進課が動くようになってくるのではないかなと思います。

(委員) 地域でそうやってつながっていくこととして、子育てサロンの現状はどうですか。人は集まりますか。

(委員) 今ちょっと前から少なくなっていますが、でも喫茶店に、高齢者、私の地域の方そのスタッフも後援者で来ています。その高齢者の方の地域のサロンがあるので、そこに若いお母さんが来るので、だから両方とも、おじいちゃんおばあちゃんが来るので、一緒に遊んだりするので、こちらはおじいちゃんおばあちゃんも若いお母さんと接するので、それはとてもいいのですが、最近の地域づくりのことで話をしている、結局今から働く人が65歳

や 70 歳ぐらいまでになりますよね。その地域の方の力が、以前は単純に考えれば 60 代くらいからもう地域に入り込んでいましたと思います。私は地域の中で高齢者と関わるのですが、やはりいらっしゃるのは 70 代から 80 代、という一番働き盛りが働いているから、なかなか地域のことに携わることはないです。だから何か必要としても、やろうという人がだんだん少なくなってきたのではないかとすごくあります。

(会長) それもありますね。だからこそ今気がついたのは、中学生が登場するのです。敬老会や祝賀パーティを今中学生が企画する地域もあります。企画する人たちがどんどん減っています。大変なところは、今までは 65 歳以上がしていましたが、年齢が上がって 70 代だったりします。それを中学生がかわいそうと言います。僕たちにできることはありませんか、僕たちがやれることを頑張りますという声から始まりました。自分たちが企画して、大人がやるのもよいかもしれませんが、そういう中学生ましてや高校生には本当にそういう出番を作ってあげたいですね。自治会でもいいしコミセンでもいいし、そういう仕組みを作らないといけません。今は古賀市も非常に素晴らしい個々人の思いでやっています。ただ、その人がいなくなったらすとんと落ちます。だからその辺りが非常に心配です。今そういう人がいるうちに手を組めるような仕組みが、まさしく非常に大事だと思います。

(委員) こういう地域づくりの方がたくさん地域にいればよいのですが、なかなかそこは難しいです。

(会長) なかなか施策として具体的にならないと駄目です。

(委員) この支援事業計画の骨子の中に、子ども議会を作ってほしいと思います。今言ったように校区の子どもが中心なれば、その校区の子どもの団体が 8 校区全部集まって、年に 1、2 回子ども議会といって、そこである程度子どもの条例を作り上げるという感じのものを、市議会の中で作ってもらったら面白いかなと思います。

(会長) 今回はいい機会でしょう。高校生にヒアリング調査をしましたが、今年からはアンケートのためではなくて通常でやりたいです。毎年 1 年に 1 回、子どもたちや生徒や高等学校の声を聞こうというのが子ども議会ですね。

(委員) 高校生、中学生、小学生のグループの代表が集まって、議会をやります。

(会長) 大人は年に 1 回ワールドカフェをやればよいのです。去年はアンケートのために支援者ヒアリングをやりました。今度は行政だけ学校だけ地域だけでなく、みんなで作るのだと言われたら、担い手育成につながるのです。そういう施策、体制づくりがものを言うでしょう。古賀はそれを作ったら早いと思います。今、皆さんの思いが点で動いています。またこれからこれをスタートにして、計画では 7 月、8 月、9 月と連続しながら作っていきますので、よろしくお願いいたします。

8. その他

事務局より連絡。

次回会議日程については 7 月 10 日を予定している。